令和5年度

授業改善推進プラン

北区立西浮間小学校

本校では、令和５年４月１４日(金)に２・３・４・５・６年生を対象に行った「北区基礎・基本の定着度調査」と６年生を対象に行った「全国・学力学習状況調査」の結果を踏まえ、以下の内容で「授業改善推進プラン」を策定し、授業改善を推進いたします。

◆学力向上を図るための全体計画

本校の教育目標

自ら育つ子

学力向上に関わる経営方針

○「確かな学力」の向上
～生涯にわたって生きてはたらく知性の基礎を育てる～

○確かな学力の向上
～生涯にわたって生きてはたらく知性の基礎を育てる～
1　学びの基礎となる力の確立
（１）学習規律の徹底
（２）家庭学習の習慣の確立
2　基礎・基本の定着を図る指導の徹底
（１）個に応じた指導の充実
（２）算数少人数指導、習熟度別指導の充実
3　主体的・対話的で深い学びの実現
（１）「なぜだろう？」「知りたいな」のある授業づくり
（２）「みんなで学ぶ」「みんなで活動する」
（３）学ぶ喜び、できる喜びを体感させる
（４）「自分の思い、考えをもつ→まとめる伝える活動の工夫
4　しっかり考え、しっかり伝わるように表現するための言語の応力の向上
（１）全ての教育活動を通じて語彙を増やすことを意識した指導の工夫
（２）読書活動の充実
5　特別支援教育の充実
（授業のユニバーサルデザイン化の推進）

令和5年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析

国語…
どの学年も共通して見られる傾向は、漢字や語彙の習得と自分の考えを文章で書くことに課題があることである。そのために、日頃の学習から積極的に音読や読書の機会を増やしながら、辞書を活用して意味や使い方を確かめたり、自分の考えを書いたりする活動を日常的に取り入れていくことが必要だといえる。

社会…
「知識・技能」と「主体的に学習に取り組む態度」の平均値や目標値が低く、社会的な事象を身近なものとして捉えることや資料を読み取り、整理・分析する力に課題が見られる。したがって、体験活動を取り入れたり、資料の提示方法や読み取るための視点など具体的に示すことで、主体的に学習に取り組みやすい環境を整えることが必要であるといえる。

算数…
どの学年も共通して区の平均値を下回っている傾向にある。問題場面を具体的に捉えられない実態もあり、導入の段階でのつまずきがあるといえる。問題解決の中で、図や絵、数直線図、文、式、記号等で問題場面を視覚的に置き換えさせたり、場合によっては具体物を操作させるなどの工夫が必要といえる。それと並行して、既習の四則計算は確実に習熟していく必要があるともいえる。

理科…
どの学年の単元においても全体的に区の平均値を下回っている傾向にある。その単元で身に付けなければならない知識・技能が定着していない実態が見られる。問題解決型の授業展開を通して、知識・技能を確実に習得し、日常生活と結び付けたり、次の単元に活用したりできる場面を意識させていくことが必要であるといえる。

本校が児童に育成したい力

○学習や生活のもとになる力「言語活動」を重点とした基礎的態度の形成

・自主性　人に言われる前に、やるべきことを自分でやる力
・想像力　実際には経験していない事柄や人の思いなどを推し量る力
・主体性（自己決定力）　何をすべきか自分の意思や判断で行動する力
・創造力　今ここにない新しいことを創り出す力
・協調性　互いに高め合い、共通の目標や目的に向かって仲間と助け合う力

主体性

創造力

◎自分から考え、考えたことを生かし、行動できる子
◎見通しをもって物事に主体的・協働的に取り組む子
◎自分のため、人のため、みんなのために頑張れる子
◎気持ちよいあいさつと、適切な言葉遣いができる子

本校の授業改善に向けた取り組み

○教育課程編成上の工夫
・授業時数の確保（Ｂ時程の実施）
・「聞く・話す」などの場面での学習規律の確立
・学校図書室を活用した読み聞かせ・読書活動
・週１、２回程度の学力の時間の確保
・宿題、学力の時間の計画的な課題設定
・年間指導計画、評価計画に基づいた
　カリキュラム・マネジメントを生かした授業の実施。
・学校図書館室を活用した読み聞かせや読書活動の充実
・計画的な朝学習や学力の時間の実施
・授業時数の確保（B時程の実施）

○指導内容・指導方法の工夫
・わからないままの子をつくらない、そのままにしない、
　どの子にも応じた「特別な支援」を普通に行う授業の実現
・ユニバーサルデザインを意識した誰もが分かりやすい授業づくりと授業実践
・「調べる→発表する→討議等の活動を充実させながら、
　仲間と学び合う問題解決的な学習や体験的な学習の実施
・１人１台タブレット端末の効果的な活用
・理科支援員の効果的な活用と協力体制

○評価活動の工夫
・各教科ごとの年間指導計画、評価計画の作成と授業の実施。
・北区基礎・基本の定着度調査、東京ベーシックドリル等による児童の実態把握と授業改善。
・授業改善推進プランの取組と保護者、地域への広報。
・「あゆみ」の評価基準の保護者への周知。

○校内における研究や研修の工夫
・研究主題を「主体的に考える児童の育成」とし、理科・生活科の実践を通して校内研究を行う。
・全７回の研究授業では、毎回全体での協議会を行い、授業力の向上に努める。
・道徳授業地区公開講座における授業の紹介（指導内容の案内配付）、親子で考える道徳の時間の実施
・主任教諭による定期的なOJT研修会の実施

○家庭や地域社会との連携の工夫
・年３回の学校サブファミリーでの授業研修。
・学校公開日や土曜授業を通して、保護者や地域へのアンケートを実施し、保護者や地域の声を授業の改善に生かす。
・年３回の学校評議委員会で授業改善に向けての意見を聞く機会とする。
・読書ボランティアや読み聞かせの協力体制の強化を図る。
・学校支援コーディネーターを中心とした学校ボランティアによる授業協力体制づくり。

◆国語／学年別授業改善プラン

	具体的な授業改善案	補充･発展指導計画
1年	話す聞く活動を充実させる。促音・拗音・長音等は反復練習をすると共に、体を使って発音の仕方を捉えさせることで定着させていく。「は」と「わ」や「を」と「お」は、書く活動をたくさん取り入れ、正しい表記で書く経験を積み重ねていく。読みについては発問を工夫し場面を捉えさせられるようにしていく。また音読と合わせて動きをつけていくことで読み取ったことを身体表現する機会を設ける。	音読の取り組みを継続し、内容を正しく読み取る力の向上を図る。長音や促音、助詞についての練習プリントや言葉集め、短作文に取り組む時間を確保し、継続的に指導していく。また、国語以外の時間にも、正しい表記の仕方について丁寧に指導していく。朝読書や読み聞かせ、アニマシオン等の活動の中で本に親しむ機会を増やすことで、多くの語彙・文章に触れる機会を設ける。
2年	漢字構成に注意したり、熟語を書いたりすることに課題がある。漢字の読み書きの指導を繰り返し行い、定着を図る必要がある。文章を書き活動を増やし、自分の経験や思い・考えを文章に表すことができるようにしていく必要がある。	音読の取り組みを継続し、読書の量を増やし、本に触れる環境を整え、語彙の拡充や表現力の向上を図る。漢字学習の中で、熟語を紹介したり、文章に取り入れたりすることで語彙の拡充を図る。文中で漢字を使う楽しさを味わわせていく。
3年	教科書の文の読み取りを丁寧に行う。説明文であれば、問いの答えや筆者の考え、物語文では、登場人物の行動や気持ちを表す文や言葉に線を引く。さらに音読を何回も行い教科書の内容をより理解するようにする。叙述を探す活動を丁寧に行う。また、教科書の言葉の意味を国語辞典を用いて調べたり、他の言葉に置き換えたりして語彙を増やす指導を行う。交流の時間を多くとり、自分の考えをもち、表現できるようにする。	習った漢字については、様々な場面で書く活動があるので、必ず使用するように指導する。分からない語彙については、辞書で調べる機会を与え、多様な語彙への関心を高める。読書の時間を確保し、読みの機会を増やす。物語の続きを自由に想像して、オリジナルの物語を作り、友達と交流する場を設ける。
4年	説明文や物語文などに出てくる言葉の意味を調べる時や漢字学習で熟語や言葉が出てきた時に、使い方を例示し、自身でもその言葉を使った文作りをしていくようにする。文章を書く活動では、いくつかの例文を提示して、選び、自分の伝えたい内容に置き換えてもよいようにする。	言葉の意味やはたらきに関する練習プリントを定期的に行う。国語辞典を活用し、語彙の習得を苦手とする児童には辞典の例文を取り入れた文作り、語彙の習得を得意とする児童には、自身がその語彙を日常で用いる際の文作りを推奨する。
5年	児童が興味をもてる題材を使って、短文で文章を書く活動を多く取り入れる。言葉や文章表現を例示し、最初は選んで使えるようにすることで語彙力を高め、自ら使えるようにしていく。また読書活動を工夫して行い、本を手に取る機会を増やす。テーマを設けて１分間スピーチを行い、相手に伝わるように話す活動も取り入れていく。	家庭学習で様々な作品を音読に取り入れ、言葉に触れる機会を学校外でもつくっていく。漢字を書く力も弱いので、学習の始めに短時間でできる反復テストを継続して行っていくことで基礎的な力を付けていく。
6年	新出漢字を中心に、辞書を活用しながら、意味とともに使い方まで確認する場面を設定していく。「書くこと」においては、どの教科でも日常的に書く機会を設定する。短い文章から少しずつ量を増やし、全体の構成も意識した、ある程度のまとまった文章（１００字～２００字）を書くことにも慣れるようにしていく。また、互いに対話や話し合いの場面を通して「話すこと・聞くこと」の活動にも重点を置いていく。	音読や読書の機会を意図的に設定する。また、漢字については、単なる読み書きにとどまらず、同音（訓）異義語や熟語の構成など既習の漢字をパズル等を通して、多角的に捉え、繰り返し復習できる機会を設定する。さらに、日常の言葉遣いを意識させることにより、敬語の定着を図っていく。

◆社会／学年別授業改善プラン

	具体的な授業改善案	補充･発展指導計画
3年	身近な社会への興味・関心をもてるよう、実際に地域を歩いたり、スーパーマーケット見学・社会科見学をしたりと体験的活動を取り入れる。体験を通して気付いたことを言葉や資料に結びつけることで知識として定着を図る。提示する資料を実態を踏まえて選択し、提示の仕方やタイミングを工夫する。	資料の読み取りについては小グループで取り組み、読み取りが苦手な児童への手助けとなる学び方にする。また、自分たちの住む北区に対する愛着をもてるよう、学習の取り組み方を工夫する。北区の替え歌づくりやポスターづくり、地域の人への手紙など、学習のまとめをどの児童にとっても取り組みやすい活動に工夫する。
4年	実際にゲストティーチャーを招いたり、校外学習等で東京都の様々な施設を見学したりすることで自分たちの生活と社会で学習する内容のつながりを感じさせる。また、資料についても掲示する方法やタイミングを工夫し、児童が学習に興味を持って取り組めるようにしていく。	実際に学校の設備を調べに行くなど、自分たちの生活の中に学習内容があることに気づかせ、興味・関心を高める。授業のまとめとして新聞などの形で学んだことを表現する活動を設定し、内容の定着へつなげていく。
5年	身の回りの様子や社会のしくみに興味をもって取り組めるように、導入や学習問題の提示の仕方に工夫をもたせる。体験活動やグループで事象や資料をもとに問題解決を目指すなど学習形態にも様々なかたちを取り入れていくことで、主体的な学びとなるようにしていく。	日頃から、朝の短時間にでも社会的な話題を取り上げ、自分たちの生活と結びつけて考えられるように話をすることで興味や関心を広げる。また、基本的知識は積み重ねと反復が大切なので、家庭学習に取り入れたり定期的にミニテストを行ったりして、定着を図る。
6年	「基礎・基本」の定着を大事にし、学級内の児童の定着度を分析した上で、全員が理解できる課題を作り、資料の見方や、考えの書き方を具体的に提示しながら学習を進めていく。社会科のワードはワークシートなどで意図的に言葉を記入したり、教室掲示を工夫したり知識の定着を行う。	学力に差が大きいため、知識をもとに「考える」場面では、少人数の交流を活用し、学び合いからまとめるという流れをつくる。政治や歴史など、実際の出来事を取り上げ、今の自分たちの生活と比べながら、興味をもち楽しみながら学習に参加できるよう、単元に合った話題選びをする。

◆算数／学年別授業改善プラン

	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	授業を「つかむ」「自分で考える」「みんなで考える」「振り返る」という流れで組み立てていく。半具体物の操作や、計算カードを繰り返し行うことで、反射的に数量を理解できるようにする。また、授業中に多くの児童に思考を表出させることで自ら考えられるようにしたい。さらに、授業の振り返りをすることで自分の学びを確かなものになるようにしていく。	知識・技能面で習熟が必要な児童を、学力パワーアップ講師と連係をし、個別で取り出して習熟を図る。繰り返しのトレーニングを重ねることで、考えるための素地を培うようにする。また、発展的な児童には授業中に思考を表現する場面を多く設定することで、表現の仕方を他の児童に広げていく。
2年	文章題では問題文に下線を引かせたり、図に表せたりして分かっていることと求めることを視覚的に理解できるようにする。どのように考えたのか、友達と意見を伝え合う時間を増やし、理解を深めていく。生活体験と結びつけ、学んだことを活かしたり、できた喜びを実感できたりような授業展開を工夫することで、算数に主体的に取り組む態度を育む。	児童の実態を捉えて、理解の難しい児童には、学力パワーアップ講師の支援を得ながら個別指導で対応する。また、既習事項が定着している児童には、「問題作り」を取り入れ、問題を出し合ったり説明したりして、既習内容の理解をさらに高める。また、自分の考えを図や絵、式、文などで表現する力を高めるため、ノートに自分の考えを書くことができる時間を十分に確保できるようにする。
3年	思考力の充実をはかるために、問題に対しての解決方法を図や絵、数直線、文、式、記号などで表すようにする。また、考えを伝え合う時間を設定し、自分と似た考えなのか、新たな考えなのかも考えさせる。図形領域では、ＩＣＴや具体物を使用し、形などをイメージをさせやすくすることで定着を図る。	児童の実態に合わせ、フォローアップなどを有効的に活用していく。また、家庭学習では、既習事項をおりまぜ、学習した時期から少し間を取り、ドリルを繰り返し反復させることで定着を図る。また、ベーシックドリルタイムでは、学年全体の児童が苦手な単元の問題を１枚取り組ませてから個々のプリントに取り組ませる。
4年	授業開始から５分間程度、前時の復習を取り入れる。小数の計算、わり算については、家庭学習や学力、ベーシックの時間も活用しながら、学習したことが着実に身に付くようにしていく。計算力だけでなく、文章問題や、数の仕組みに関わるような内容に問題にも取り組むようにする。	実態を捉えた少人数クラスの編成を行うと共に、各クラス担当教員で学習問題、補充問題、発展問題の情報共有を図り、そのクラスの実態に適した問題を教科書の問題の他に取り組む。児童同士の交流や、論理的な思考力が高まるよう、交流を重ねたい。計算する力も重要だが、自分の考えを広める活動を多く取り入れていきたい。
5年	デジタル教科書や実物投影機等のICT機器を活用し、児童の理解を促す。また、児童に必要感をもたせるために、具体物を提示したり、そうささせたりすることが有効であると考える。学習活動を形だけのものではなく、日常と関連付けて学習させることで、児童の意欲や関心を高めたい。	適用問題に取り組む時間を毎時間確保し、学習内容の理解を確実にする。繰り返し演習する時間は家庭学習やｅラーニングで確保し、放課後や休み時間を活用して必要な補習を行う。理解が進んでいる児童には自分の考えを分かりやすく順序立てて説明させることで、より発展的な理解を促す。
6年	計算領域の単元では、必ず既習の四則計算に触れ、確実な習熟（定着）を促す場面（時間）を設定する。特に、文章問題でのかけ算やわり算の演算決定においては、数直線図等を用いて根拠をもって自ら立式できるように促す。また、問題に対して、どのように解いたり求めたりすればよいかを互いに説明する機会を設定し、問題解決の過程を日常化していく。	ベーシックタイムや日常の宿題の中で、ドリルだけではなく、既習の計算問題を復習できるように、学びポケットやｅラーニング等に積極的に北コンを活用していくことで促していく。授業では、習熟度コース別に補充問題や発展問題を用意することで、児童の定着に応じた指導が進むようにしていく。

◆理科／学年別授業改善プラン

	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	導入時に共通体験や事象提示を通して、個々の生活経験の差をできる限りなくし、目的意識をもって活動に取り組めるようにする。学習の流れを知るための掲示物や、書くための手助けとなる定型を使用する。自分なりの気付きへの価値付けとともに、理科的用語の定着を丁寧に行う。	「結果」の場面で、書くことへの抵抗が考えられる。そのため、言葉以外の表現方法の場も用意し、そこから言葉に表出していくようにする。単元の終わりに、学習内容の振り返りとともに、追加実験の機会を設定する。知識と体験が結び付けられるような学習のまとめを行う。
4年	事象提示の場面や問題づくり、観察・実験から、結果を知り、考察し、結論まで導く過程で、理科の学習内容としてしっかりとおさえたい言葉を繰り返し確認していく。結果から分かることを自分の言葉でまとめさせる指導をしていく。	単元の終わりに練習問題に取り組み、学習内容の定着を目指す。また、発展的な内容として、その単元で学習した内容を自分なりに図や言葉でまとめる活動、まとめた内容を友達と意見交流する場を取り入れるようにする。
5年	単元のはじめでは、児童の疑問をもとに問題を見い出せるよう、導入の活動を工夫する。楽しむだけの観察・実験ではなく、何を調べるために、どこに視点を置いたらよいか明確にできるようにする。正しい観察・実験の仕方を確認させ、結果から言えることを考察して、自分の言葉で表現する力を身に付けられるよう、ヒントカードを用いる。	単元の学習後には適応問題に取り組み、問題の問われ方や答え方の確認を行う。ラインズｅライブラリーを活用し、家庭学習でも繰り返し復習を行えるようにする。単元終盤には、学習したことを活かした追加実験を行い、知識の理解と共に主体的に学習に取り組む態度を身に付けられるようにする。
6年	単元を進めるにあたって、実験手順や語句、その結果を、教室掲示として蓄積していき、毎時間で行ったことを児童が気軽に振り返ることができるようにしていく。また、授業を行う際には、その単元と関連する前学年までの指導内容を振り返る活動を行うことで、学んだことがその場限りにならないように繰り返し指導していく。	単元の学習の終末には、必ず確認問題を行い、その単元で行った実験や出てきた語句への理解を深めたり、定着を図ったりする。また、学んだことを自分の言葉でまとめる活動を取り入れることで、知識や技能、語句を適切に使いながら思考を整理して表現できる力を身に付けさせていく。